



自己紹介する東南アジア各
国からの参加者＝県庁で

サインパー
ニットさん
は「文化の
違いや多様
性を学ぶ中
で、私たち
が持つ共通
性を喜びた
い」とあい
さす。一行
は二十八日

「東南アジアの船」
参加者が県庁訪問
内閣府が主催する
「東南アジア青年の
船」事業に参加する各
国の青年が二十九日、
県庁を訪れた。

日本を含む十一カ国
の二十九人。山岸勇副
知事は「日本文化に触
れ、石川を第二の古里
と感じてまた訪れてほ
しい」と歓迎した。
団長を務めるタイの
ティエン・トーン・プラ

に県内入りし、ホーム
ステイで三十一日まで
県内に滞在する。
事業は、日本と東南
アジア諸国連合(ASEAN)各国の青年の
交流を図ろうと、一九
七四(昭和四十九)年
から始まった。県内へ
の受け入れは七六年か
ら十二回目で、今回を
含め四百三人を受け入
れている。
(本安善則)

「東南アジア青年
の船」参加者訪問
県庁、副知事と懇談
内閣府の「東南アシ
ア青年の船」事業の参
加者29人が29日、県庁
を訪れ、山岸勇副知事
と懇談した。山岸副知
事は「石川は歴史や伝
統文化があり、自然も
豊かな地域。短い期間
だが、ホームステイを
通じ、いい思い出を作
ってほしい」と歓迎の
言葉を贈った。
一行は東南アジア諸
国連合(ASEAN)
の11カ国から参加。31
日まで県内にホームス
テイをしながら滞在
し、兼六園の見学や金
箔張りの体験などを行

う。11月1日に東京に
向かう。

姉妹都市 どんなどこ

西小5年生 公園訪れ国際交流

金沢市駅西新町三の
姉妹都市公園で、国際
交流への理解を深める
講座があり、西小学校
の五年生七十二人が公
園内の都市紹介コーナ

ーで国際交流員の話に
耳を傾けた。

同公園には、金沢市
が姉妹都市提携する世
界七都市と同市をイメ
ージしたミニユメント

や建物が並ぶ。昨年六
月に韓国・金州市のコ
ーナーが完成し、市が
講座を企画した。

韓国、米国、ベルギ
ー、フランスの国際交
流員と中国の協力交流
研修員が講師を務め、
グループに分かれて各
国を紹介。米国のロバ



ト・ワーサウムさん
は、ニューヨーク州バ
ツファロー市から贈ら
れた銅像やナイアガラ

の滝をモチ
ーフにした
ミニユメン
トなどに触
れながら説
明した。

この後、
学校に会場
を移し、児
童たちは各
国の食文化
などについ
て学び、異
国に興味を
ふくらませ
た。
(田嶋豊)

国際交流員の説明を聴く児童
たち。金沢市の姉妹都市公園で

ベルギーで表現追求 服飾デザイナー・中島さん

白山市出身でベルギーの有名ブランドに所属が決まった服飾デザイナー・中島輝道さん(29)の写真が29日、北國新聞社を訪れ、「本場で感性を磨き、日本人にしかできない表現を追求したい」と抱負を語った。

中島さんは2005年からベルギーのアントワープ王立芸術アカデミーで学び、今年6月に卒業した。小松精練



(熊本市)などの繊維で作り上げた卒業制作12点が、パリ・コレクションに出展するブランド「ドリス・ヴァン・ノッテン」から評価され、同社にデザイナーとして採用された。

来シーズンのパリコレから参加する予定の中島さんは「50年、100年と残るような作風を生み出せるよう、経験を積みたい」と力を込めた。

歴史資料デジタル展示

タッチパネルで閲覧 携帯使い外国人案内

金沢大資料館(金沢市)と北陸先端科学技術大学院大(能美市)などが共同で、歴史資料活用展示システム「KuRI」を開発した。膨大な資料のデータベース機能に加え、ネットなどでのデジタル展示を可能にした画期的システム。金沢市の石川四高記念文化交流館で二十九日始まったイベントで研究成果を公開している。三十一日まで。(田嶋豊)

両大などは二〇〇九年度、情報通信技術を活用した新しい資料展示手法の研究、開発に着手。学術資料の蓄積・整理だけでなく、ITを利用してデジ

タルコンテンツ化を図り、世界に発信していくことを狙いとしている。

イベントでは、旧制第四高等学校で電磁気学や力学、熟学などの実習実験や研究用に使われていた物理機器(同資料館所蔵)六点をはじめ、当時の学生のノートや答案用紙などを展示。これらの資料をデータ管理したKuRIでは、タッチパネルで画像を拡大、縮小したり、注釈や解説などを閲覧したりすることもできる。

さらに、この研究を応用し、歴史資料を活用した「観光ガイドシステム」も開発中。iPhone(アイフォーン)を使って昔の写真や絵図などを見ながら、歴史観光が楽しめるアプリケーションソフトで、この日は金沢市内で外国人を対象とした「モニターツアー」を実施した。

金沢大資料館のシエレミー・フィリップス客員研究員が参加者を連れて市内を回り、同システムを使いながら歴史を解説した。現在は英語版のみに近く配信される。

歴史資料の活用を研究する「遍プロジェクト」の代表で、北陸先端大の堀井洋・知識科学研究科助教は「学術資料を一般利用者に普及させる有効な手段の一つ。産業利用への可能性をさらに追求していきたい」と話している。

金大資料館と先端大 システム共同開発



携帯電話で歴史資料を見ながら、市内観光する外国人ら(金沢市内で)

台湾最大の 旅行博に参加

来月、市と観光協

市と市観光協会は11月5～8日に開かれる台湾最大の旅行博「台北国際旅行博」にブースを出展する。兼六園の雪づりなど冬の金沢の魅力をアピールし、商談会にも参加して小松―台湾定期便の利用促進と個人・団体旅行の誘致につなげる。

旅行博は台北世界貿易センターで開かれる。昨年は58カ国・地域から1200ブースが出展し、21万人が来場した。

市などは日本旅行を取り扱う台湾の旅行業者や観光関係の広告代理店、旅行誌出版社なども訪問し、宣伝活動を行う。

社説



ジャパン・クタニ再興の一步

れば、金沢や能登に比べ
て影が薄い印象もある南
加賀一帯の観光資源を発

台湾で九谷PR

県陶磁器商工業協同組合(能美市)は、今月末から台湾の台北市で「九谷茶碗まつり」の初の海外キャンペーンを展開する。12月に台湾北部の温泉地にオーブンを加賀屋の和風旅館に、九谷焼の食器25種類が採用されることになったことも合わせ、台湾に九谷焼の良さを浸透させる好機である。明治期に欧州を中心に湧き起った「ジャパン・クタニブーム」と同様、海外から販路開拓の活路を開く一歩として取り組んでもらいたい。

開催に転換した。過去2回の展示会では、10万円を超える湯飲みなど高級雑貨用品を中心に需要が多かった。さらに今年に入って台湾の旅行会社が能美市の九谷陶芸村を訪れ「富裕層向けのコースに組み入れたい」と提案するなど、追い風も吹いてきた。

今年27日から台北で開かれる展示会では、5月の連休の大型人気イベントである茶碗まつりを収録した映像を紹介し、まつりへの来場を促す。九谷焼の本場のにぎわいを味わってもらうことで、ファン層拡大につながる狙いがある。

台湾の愛好者を小松便を介して茶碗まつりに呼び込むことで、九谷焼と合わせて、近隣の温泉や史跡などを巡るツアーなどを提案す

2年前の小松―台北定期便の就航を機に、同組合は、それまで東京など国内で開いていた展示会を、台北市の大型百貨店での

輸出生産が全体の8割を占めていた。九谷焼のままとった輸出は1980年代に途絶えたとされ、円高もあって、現状でも輸出はなかなか厳しい状況だが、台湾を海外戦略の起点として、ジャパン・クタニ再興への道筋を開きたい。

た誘客策が求められる。

ジャパン・クタニ隆盛時代は、

中国バイヤー15社参加

北陸銀、金沢で食の商談会

北陸銀行の「中国バイヤース・サミットin金沢」(本社主催)は29日、金沢市の石川県立音楽堂で行われ、中国から招いた15社の食品企業のバイヤーと、県内を中心とした23社の担当者が商談を交わした。

商談会は昨年続き2回目。中国・上海と大連の商社、百貨店などの企業が参加。北陸銀行によると、中国バ

イヤーを招き、日本国内で行われる商談会としては最大規模とい



販路拡大に向け、商談する関係者

29日午前9時50分、石川県立音楽堂

う。

開幕セレモニーで、

北陸銀行の加世多達也専務は「世界の巨大市場である中国との交流は日本経済活性化に不可欠。これを機会に輸出の際のノウハウなどを蓄積してほしい」と述べ、北國新聞社の温井伸常務もあいさつした。金大の田中隆治理事らも加わり、テープカットが行われた。

商談は、中国バイヤー1社に通訳1人が付き、担当者同士が個別に話し合う形式。60件の商談が行われる。

ハチパンの生めんを試食する中国のバイヤー
＝石川県立音楽堂



美味で安全「売れる」

中国バイヤー15社 めん、野菜など評価

北陸銀、金沢で食の商談会

北陸銀行の「中国バイヤー」を中心とした23社の「金沢」(北國新聞社)主催は29日、金沢市と、中国バイヤーを迎え、県内で開催した商談会では最大規模とい

中国からは上海と大連の商社、百貨店などが参加した。ハチパン(金沢市)は大連のデパートの買い付け人に、生めんなどの外販商品売り込んだ。加藤尚登販売事業部長は「生めんは、味については中国で売れるという評価をもらった。課題の賞味期限をどうクリアするか考えたい」と話した。県内企業が扱う有機野菜や調味

料、薬材も関心を集めた。中国では、富裕層を中心に食の安心安全に対する関心が高まり、日本の食品が評価されている。北陸銀行は、商談会で地元企業と中国企業の接点を増やし、中国販路の拡大を後押ししたい考え。来年1月には大連に駐在員事務所を設置し、支店体制を一段と強め、田中隆治理事らが加わ

る。開式典では北陸銀行の加世多達也専務、北國新聞社の温井伸常務があいさつ。金大の田中隆治理事らが加わり、テープカットした。

さまざまな動植物の生息環境を維持するための「県生物多様性戦略ビジョン」の策定作業が大詰めを迎えている。名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の関連行事では、谷本正憲知事が7本柱の基本戦略を世界にPRした。もともと、県の熟い入れ「よつばは裏腹に」生物多様性への関心は高いと言えず、ビジョン策定が直接、里山里海保全の視野拡大につながるかは未知数のままだ。

【6面に関連記事】

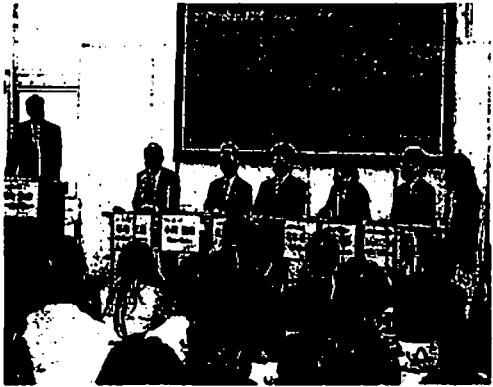
潮流

いしかわ

生活様式の変化や過疎化などで荒廃が著しい里山里海では、さまざまな動植物の共生が困難になっているとされる。このため、県は2008年度に県生物多様性戦略「ビジョン」の策定に着手。県内で初めて里山里海保全に重点を置いた内容(環境部)で、いしかわ動物園(鹿上市)で飼育中のトキを環境保全の象徴として、「トキが羽ばたく石川の笑顔」をテーマの目標に掲げている。

県戦略ビジョン策定が大詰め

生物多様性の浸透が鍵



COP10のサイドイベント「里山知事サミット」で県生物多様性ビジョンの概要などを説明する谷本知事(左から2人目)＝20日、名古屋市内

基本戦略には、多様な動植物を守る意識を周知することや、環境保全に取り組む人材の育成、里山里海を抱える世界各地との情報共有、発信など七つの基本戦略を盛り込む。具体策策としては、優れた良種を持つ里山里海をモデル地区に選定する取り組みや、企業や団体の保護活動を際証する制度の創設などを挙げる。

「生物多様性保全の取り組みが継続的に続くよう、石川から世界に向けて強いメッセージを発信したい」。20日に開かれたCOP10のサイドイベント「里山知事サミット」で

「COP10ブーム」にせず

「トキ羽ばたく」へ7戦略

11～29日に開催されたCOP10で、名古屋国際会議場前に設けられたブースの来場者数は約7千人に上った。

国際生物多様性年の閉年行事の開催地である石川は、国内外の約200の自治体、団体、企業がブース

を見学する「生物多様性フェア」の会場と異なり、政府機関と同じ場所にあった。県内の特産品や観光地、金大の「里山里海プロジェクト」を紹介するチラシやパネルが置かれ、県職員3人がトキの分散飼育の取り組みなども周知した。

谷本知事は国内外の政トナリシップ(IIPS)府関係者、研究者ら約300人を前にこう強調した。

「県ではCOP10に積極的に参画した。19日、環境省と国連大高等研究所が協賛する里山保全の国際組織「SATOYAMAアイニシアティブ国際パートナーシップ」で、中西吉朗副知事、榎村哲企園長、水野裕志環境部長らが県の取り組みを紹介。23、24日にはCOP10参加者52人が県内にエクスカーション(小旅行)で、

「(県幹部)が確保され、」

たが、経済広報センターが今春に全国で行った意識調査では、生物多様性という言葉を認識しているのは約8割、内容を知っている」としたのは27%にとどまる。県内では意識調査が行われていないが、県は石川での関心も低いと言え、COP10を契機にした「過性のブーム」をたらないよう、ビジョンを基に里山里海保全の重要性を継続的に訴えたい(企画調整部)としている。

金沢市では12月16、17日、国内の科学者の代表的機関である日本学術会議の国際会議、18、19日には国連の生物多様性年「を締めくくるクロージングイベント(閉年行事)」が開かれる。金大の中村浩二教授は「翌年の「国際森林年」へ備え、国際的にも重要な行事。県内で開催される意識を周知する取り組みが必要だ」と話した。

に防れ、いしかわ動物園や能登町の香園の里などを巡り、県幹部は「環境立県・石川をPRできた」と胸を張った。

県内では、I-PSIに名を連ねた金大が「里山里海プロジェクト」と銘打ち、環境に配慮した地域活性化の担い手の育成などに取り組むほか、企業や民間団体などでも里山里海保全の活動が活発化している。

都市の価値を高める活動

生物多様性の保全

生物多様性条約の第10回締約国会議は、都市も豊かな生物の種や生態系の保全に大きな役割を担っており、生物多様性に配慮したまちづくりが都市の「価値」を高めることをあらためて認識させた。生物多様性条約事務局の公式ホームページに紹介された金沢市の活動は、そのことを示す具体例といえる。

生物多様性の保全には、政府レベルの取り組みだけでなく、自治体の参画が不可欠という認識が近

年の条約締約国会議で高まってきた。急速な都市化が生物多様性の減少要因であることから、前回のドイツの会議では、都市の活動を促す宣言も採択された。

こうした流れを受けた名古屋の締約国会議では、北陸三県を含む国内外100の自治体による国際会議が併催され、「生物多様性の保全に配慮した都市づくり」に積極的に取り組むという宣言が採択されたのは意義深い。

宣言は具体的取り組みとして、自然や生態系に配慮した都市計画の策定や、都市と周辺の農林業地域との連携強化、若者らへの啓発活動の強化などを挙げている。今後の都市づくりでは、単なる緑化で満足せず、野鳥やチョウ、トンボなどの保全、回帰と「つとま」で意識した取り組みが重要であると認識しなければならぬ。最近

の民間の都市開発などでは、生物多様性への配慮が不動産の付加価値を高めることにもなるという考え方が広がり始めている。

全国に先駆けて伝統環境保存条例を設けた金沢市は、用水保全条例や斜面緑地保全条例なども制定し、起伏に富んだ自然と歴史の景観保全に努めてきた。こうした活動が、都市の生物多様性保全に役立つ先進事例として条約事務局のホームページで紹介された。歴史的・文化的景観の価値と生物多様性の価値を両立、向上させることが金沢の役割と考えたい。

また、最近の動きでは例えば、小松市の「コマツ小松工場跡地の一角で「里山」を再現し、「ピオープ」などを整備する事業が始まったばかりである。生物多様性に配慮したまちづくりの良い参事例となることが望まれる。

失業外国人を支援

不況で仕事を失った外国人家庭の生活支援に取り組む市民グループ「エスペランサ」を一年半前に結成した小学校教諭青木幸枝さん(58)＝三重県鈴鹿市白子＝は「当分はやめられる状況



じゃない」と感じていて。外国人の雇用はなお不安定だ。

親が解雇され

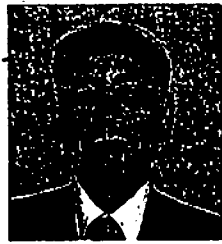
日々の食事にも不自由するなど、子どもにまで及ぶ窮状を見過せなかった。食料品の寄付を募って配り続け、これまでに延べ五百以上の家族を支援してきた。「多くの人が協力してくれた。さらにつながりを広げていけたら」

北風抄

10月2日ある新聞社の世論調査では「中国船長の逮捕は適切」は83%である。倉捕直後、朝日、読売、日経、毎日の各紙は社説で「倉捕」当然と記述した。それでいいのか、私は少し異なる考えを持っている。

日本国民に「尖閣諸島が日本領」に何の疑問もない。では中国はどう思っているか。この点は意外に日本では知られていない。1996年北京週報第34は「明、清朝時代の文獻は、尖閣は中国の領土として扱っている。中国が国連加盟し国際社会に復帰してから中国領と主張している」と記している。では日本の同盟国米国は尖閣諸島

をどう扱っているか。多くの人に意外であると思うが國務省報道官は「尖閣には日中で異なる考えが



尖閣にどう対応するか

孫崎 亨 (元駐イラン大使・元防衛大教授・小松市出身)

い」といつ答弁書に署名した。従って日本国内では、日本の国内法に基づき爾々と進めることが正しいと世論となっている。

しかし、米国を含め国際世論がこの地を領土として扱ったと認める事は変わらない。領土の公権力の発動は容易に武力衝突に発展する。私が外務省に入りモスクワ

で爾々と行動することとなる。衝突は不可避となる。

この状況を脱するため中国は棚上げを提示した。1990年春中国外交部副部長は橋本駐中国大使に対して、「釣魚島は昔から中国の領土。中国は主権を持つ。他方日本は見解を異にしている。中日国交正常化交渉の時、双方は問題

る。日中国交回復の時に周恩来首相が「小島を残して大同につく」と述べたのはこれを意味する。この方針はその後、鄧小平副首相に引き継がれた。

この姿勢に今中国では異論が出ている。最近でも羅援少将が「鄧小平は、論争を棚上げし、共同開発する」という方針であったが、主権は棚上げできない。主権は明確にしなければならぬ」と論議している。

ある。領有権で米国はいずれの側にもつかない」と述べている。米国情報機関CIAのFACT B OOKは、尖閣を領有地としてい

る。管政権誕生の初閣議で菅首相は「尖閣諸島をめぐり、解決すべき領有権の問題はそもそも存在しな

大学に留学中の1989年ウズリ川の島の帰郷を巡り中ソ両軍が衝突した。双方約40名の死者を出した。

中国が尖閣列島を自国の領土と主張し、米国等は中立の立場であるが、「爾々と国内法」の適用が最善か不明となる。中国も自国法

を後日に棚上げすることに同意した。中国側はこの了解は非常に重要と認識している」と述べた。

日中双方が領有を主張する中、「棚上げ」方式は日本に有利な方式である。棚上げでは日本の実効支配を認める。実効支配が長期化すれば次第に領有権が認められ

双方が主権を主張し合えば緊張がでる。中ソ国境衝突のような事態は容易に起りうる。1978年には中国の約100隻の漁船が尖閣諸島周辺に出て、約10隻が12海里の中で操業し、2週間留まった。国際社会で出来れば自分の主張を貫きたい。しかし時として代償が伴う。「主権は双方主張、解決は棚上げ、共同開発模索」が最善の策と思う。